



昭和50年代位までの昔の写真を募集しています。提供いただける方は、役場秘書広報課広報広聴係 ☎ (295) 2112 内線332 までご連絡ください。

現在の風景



むぎわら
箕和田地内の麦藁屋根の家を写した写真
(昭和53年4月) (松田太郎さん提供)



県道岩殿岩井線を鳩山方面に向かい、箕和田地内にある麦藁屋根の住宅を写した写真です。麦藁屋根の家とお茶畑、歩道が整備されていない道路が、のどかな雰囲気を醸し出しています。昭和初期には、麦藁屋根の家が主流でしたが、その後、毛呂山町でも都市化の進展に伴って姿を消しました。

徒然歳時記 いぐさ たたみ
藺草と畳

い草は、俳句の世界では、夏の季語とされています。夏に刈り取られ、泥染めなどの加工を経て畳表となるい草。い草は畳の素材として、古くから使われて来ました。



い草の中身は、スポンジのようになっています。空気を多く含みます。このため、夏は暑さを遮断し、冬は冷たい空気を遮り、保温する効果があると言われています。また、藁にも同じ効果があるそうなので、これらを使って作られる畳は、日本の風土に合ったエコ製品といえます。

畳は、奈良東大寺の正倉院にある聖武天皇が使用した御床畳が最も古いとされています。その後、身分によって畳の大きさや縁の生地や色が決められるようになり、一般庶民に普及したのは江戸時代に入ってからです。江戸時代の長屋では、畳は、大家ではなく店子が用意していました。店子たちは、畳上げをして畳を大切に使用し、引っ越しのたびに畳を持ち運んでいたということです。

さて、8月30日は、総合公園でサマーフェスティバルが開催されます。い草で編んだゴザを用意して、青い夏草の香りを楽しみながら、大空に舞い上がる大輪の花を見に行かれてはいかがでしょうか。

【編集後記】 季節の野菜をおいしく召し上がっている様子を取材して、私も夏野菜たっぷりのカレーを食べようとおお張り切り！ さっそく、なすやらカボチャやらを買ってきて、いざ調理と思ったら、買い置きしてあったたまねぎが傷んでいて使えません。まあ、いいやとたまねぎ抜きで作ったら、コクのない妙な味のカレーになりました。どんなに素材がよくても、料理人がズボラだと、やっぱりダメなんですな…。(M)

わがやのアイドル



清水 ひかりちゃん
(1歳10か月)

毎日、姉、兄にもまれ、たくましく・・・。

近ごろはおしゃべりも上手になり、

いっそう賑やかになってきた我が家です。



市川 りこちゃん
(1歳2か月)

大好きな涼しいと準にいが学校から帰ってくると大喜び！ りこの笑顔に家族みんな癒

されています。